副咽頭間隙に転移した甲状腺乳頭癌の2例

韓 相善・北村 溥之・高北 晋一・前谷 俊樹
岩橋 由佳・宮崎 眞和・山本 典生

Papillary Carcinoma of the Thyroid Metastasizing to the Parapharyngeal Space ; Two Case Reports

Sanson Han, Hiroyuki Kitamura, Shin-ichi Takagita, Toshiki Maetani,
Yuka Iwahashi, Masakazu Miyazaki and Norio Yamamoto

(Tenri Hospital)

The parapharyngeal space is an anatomically complex region in which a variety of neoplasms can arise. Metastasis of a thyroid carcinoma to the parapharyngeal space is very rare. We recently treated two cases of this disease. The first case was a 66 year-old male with recurrent thyroid carcinoma presenting as a parapharyngeal mass, who had previously undergone a hemi-thyroidectomy and modified neck dissection. The second case was a 61 year-old male with accidental thyroid carcinoma metastasis to the parapharyngeal space during surgery for the treatment of hypopharyngeal and esophageal carcinoma. The possibility of metastasis to this region should be considered in the treatment of thyroid carcinoma.

Key words : thyroid, metastasis, parapharyngeal space

はじめに

副咽頭間隙に発生する腫瘍は神経原性腫瘍や多形腺腫がその大部分を占めるが、この部位は解剖学的に多様な構造をもつため多彩な腫瘍が発生しうる。今回我々は副咽頭間隙に転移した甲状腺癌のまれな2例を経験したので文献的考察を加えて報告する。

症 例

症例1: 66歳, 男性。

主訴: 特になし。

既往歴: 甲状腺乳頭癌で昭和53年10月甲状腺左葉切除および左保存的頸部郭清術を当科において施行。この際頸部リンパ節は左Ⅲ, V, VIに転移を認めた。

家族歴: 特記すべきことなし。

現病歴: 術後の定期的観察中に、平成8年10月18日左

側咽頭後壁粘膜下に表面平滑、可動性良好で硬い腫瘍を認めた(図1)。しかしその他の頸部リンパ節をはじめ頭頸部領域に異常所見を認めなかった。

MRI 所見(図2): 左側副咽頭間隙にT1・T2ともに高信号を呈する径3cm大の腫瘍を認めた。以上の所見より副咽頭間隙への甲状腺癌の転移を疑い平成9年2月20日経口的アプローチで腫瘍摘出術を施行した。腫瘍は周囲との癒着を認めるものの摘出できた。径3cmの充実性のリンパ節と径1cmの嚢胞状変化をきたしたリンパ節が融合していた(図3)。病理組織診断では乳頭癌細胞の増生を認め、甲状腺乳頭癌の転移であった(図4)。術後8カ月経過した現在再発を認めていない。

症例2: 61歳, 男性。

主訴: 嚥下困難。

既往歴: 特記すべきことなし。

図1 局所所見
左側咽頭後壁の腫脹を認める。

図3 摘出標本
充実性の腫瘍。一部石灰化を認める。

図2 MRI 所見
副咽頭間隙に径 3 cm の腫瘍性病変を認める。

図4 病理組織像(症例1)
腫瘍細胞の乳頭状増殖を認める(HE×40)。

家族歴：特記すべきことなし。

現病歴：平成8年1月中旬より嚥下困難を自覚し、嘔声も認めたため同2月22日当科を受診した。初診時、右下咽頭梨状窩に腫瘍を認め、右頸部にも径2 cm のリンパ節腫脹を認めた。また上部消化管内視鏡で頸部食道から胸部食道におよぶ腫瘍を認めた。下咽頭癌(T3N2b)および食道癌の診断で術前照射 50.6 Gy と化学療法(シスプラチン(CDDP)+5-フルオロウラシル(5-Fu)) 2

クール後、5月15日咽喉頭食道全摘、両頸部郭清、胃管つり上げ術を施行した。右ルビエールリンパ節も郭清したところ径5 mm の甲状腺乳頭癌の転移を認め(図5)、甲状腺右葉に径8 mm の腫瘍を認めた。病理組織診断は甲状腺は乳頭癌、下咽頭および食道は扁平上皮癌であった。なお右ルビエールリンパ節以外の領域リンパ節には甲状腺癌の転移は認められなかった。術後1年5カ月経過した現在再発を認めていない。

考 察

副咽頭間隙には神経、血管、リンパ節などが存在するため多様な腫瘍が発生し得る。神経原性腫瘍や唾液腺由

図5 病理組織像(症例2)
腫瘍細胞の増殖を認める(HE×40)。

来の多形腺腫などが大部分を占め、Batsakis ら¹⁾は報告例476例のうち唾液腺由来腫瘍216例(45%)、神経鞘腫95例(20%)、旁神経節腫瘍51例(11%)の順で多く、良性腫瘍333例(70%)、悪性腫瘍143例(30%)と報告している。本邦では宮原ら²⁾が報告例77例を検討し、神経鞘腫が42例(55%)と最も多く、また悪性腫瘍は5例(6%)と報告している。近年CT、MRIなどの画像診断の進歩により副咽頭間隙腫瘍に遭遇する機会が増えてきたが甲状腺悪性腫瘍の副咽頭間隙への侵襲例は我々が渉猟した限り^{3)~9)}では自験例を含め国内4例、海外5例の9例とまれであった(表1)。

副咽頭間隙腫瘍の術前診断には宇野ら⁶⁾が報告するようにMRIが最も有用であり、症例1もMRI上、嚢胞様の所見を示すことから神経鞘腫や多形腺腫と鑑別することができ、甲状腺癌の転移を疑った。

手術法に関しては口内法、頸部外切開法、耳下腺経由法、下顎骨離断法などが単独または併用して用いられるが、症例1は径があまり小さくなく、周囲との癒着も少なかったため口内法で腫瘍を摘出することができ、神経脱落症状も生じなかった。また症例2は下咽頭癌手術時における偶発癌でありルビエルリンパ節郭清時に摘出し得た。

甲状腺乳頭癌であってもまれに副咽頭間隙への転移例があることを念頭におく必要があると考えた。

ま と め

副咽頭間隙に転移したまれな甲状腺癌の2例を報告した。

稿を終えるにあたり、御校閲を頂きました京都大学大学院医学研究科 感覚運動系病態学講座 聴覚・言語病態学領域、本庄巖教授に深謝します。

参考文献

- 1) Batsakis JG and Sneige N: Pathology consultation; parapharyngeal and retropharyngeal space diseases. *Ann Otol Rhinol Laryngol* 98: 320~321, 1989.
- 2) 宮原 裕, 東家倫夫, 高村善夫, 他: 副咽頭間隙に発生する腫瘍 一症例報告および文献的考察一. *耳喉* 50: 35~43, 1978.
- 3) 吉田豊治, 吉田美枝子, 茂木五郎: 副咽頭間隙に見られた甲状腺癌の1例. *耳鼻臨床* 69: 527~530, 1976.
- 4) Robbins TK and Woodson GE: Thyroid carcinoma presenting as a parapharyngeal mass. *Head Neck Surg* 7: 434~436, 1985.
- 5) Pearlman SJ, Lawson W and Biller HF: Occult medullary carcinoma of the thyroid presenting as neck and

表1 症例の内訳

報告者	報告年	年齢	性	主訴	患側	腫瘍最大径	組織型	アプローチ法
吉田ら ³⁾	1976	49	女性	嚥下・構音障害	右	40 mm	乳頭癌	口内法
Robbins ら ⁴⁾	1985	62	女性	嚥下障害	左	60 mm	乳頭癌	頸部外切開法
Pearlman ら ⁵⁾	1988	69	男性	咽頭後壁腫脹	右	記載無し	髄様癌	下顎離断法
宇野ら ⁶⁾	1991	59	女性	咽頭異常感	右	90 mm	乳頭癌	頸部外切開法
Horvath ら ⁷⁾	1991	55	女性	咽頭異常感	左	記載無し	乳頭癌	記載無し
Ferrario ら ⁸⁾	1995	47	男性	咽頭後壁腫脹	右	45 mm	乳頭癌	頸部外切開法
Sirotnak ら ⁹⁾	1997	53	女性	頭痛	右	20 mm	乳頭癌	口内法
自験例	1998	66	男性	なし	左	40 mm	乳頭癌	口内法
自験例	1998	61	男性	嚥下困難	右	5 mm	乳頭癌	頸部外切開法

- parapharyngeal metastases. *Otolaryngol Head Neck Surg* **99** : 509~512, 1988.
- 6) 宇野芳史, 斉藤龍介, 西崎和則, 他 : 副咽頭間隙腫瘤を呈した甲状腺乳頭癌. *耳鼻臨床* **84** : 77~81, 1991.
- 7) Horvath M, Plas H, Termote JL, et al : Thyroid-related papillary carcinoma presenting as a cystic lesion in the parapharyngeal space. *Rofo Fortschr Geb Rontgenstr Neuen Bildgeb Verfahr* **155** : 373~374, 1991.
- 8) Ferrario F, Roselli R and Macchi A : Occult thyroid carcinoma presenting as a parapharyngeal mass. *J Laryngol Otol* **109** : 1204~1206, 1995.
- 9) Sirotnak JJ, Loree TR and Penetrante R : Papillary carcinoma of the thyroid metastatic to the parapharyngeal space. *Ear Nose Throat J* **76** : 342~344, 1997.

(原稿受付 : 平成 9 年 11 月 25 日
原稿採択 : 平成 10 年 1 月 7 日
別刷請求先 : 韓 相善
〒615-8087 京都市西京区桂御所町 1
三菱京都病院耳鼻咽喉科)